

科目名称：	社会的養護 I	
担当者名：	田中智子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>保育士になるために必要な「社会的養護」の知識を習得する事。現代社会の現状を理解した上で、社会的養護の仕組み、社会的養護の施設の種類・特質・役割を理解する。専門職としての自覚を持ち児童との適切な関わりと基本的な支援について学ぶ。社会的養護の児童に対しての関わり方を学ぶ。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1・社会的養護の役割と意味を踏まえ、その観念と基本原理を理解できる。 2・社会的養護の歴史と成り立ちを理解できる。 3・社会的養護の法制度とサービス体系を理解できる。 4・子どもの権利養護について説明できるようになる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		60	20	20	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》児童養護施設保育士	《経験年数1》39年
	《内容2》社会福祉士	《経験年数2》3年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
社会的養護の理解を深める	授業の内容をよく理解し、自分の意見を持てる。探求心がある。	「社会的養護」を理解している。	「社会的養護」を概ね理解している	社会的養護を理解していない
社会的養護の知識を得る	授業の内容について積極的に質問して展開している。	「社会的養護」を理解している。	授業内容を概ね理解している。	社会的養護の知識が身についていない
グループワークの積極性	積極的に自分の意見を言える。グループの意見に傾聴・共感できる。	グループの意見を傾聴しながら自分の意見を言える	グループワークで自分なりの意見が言える。	グループワークが消極的である
専門職としての意識	社会的養護Ⅱに繋がる意識が十分にある。	専門職にむけて学習意欲がある。	専門職としての意識があまり見られない。	学習意欲に乏しい

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス・自己紹介・社会的養護とは?	社会的養護の理解。知識所得の必要性の確認	40分
第2回 社会養護の歴史	日本・世界の社会的養護の歴史を調べる	30分
第3回 社会的養護の仕組み	教科書にて施設養護・家庭的養護・家庭養護について調べる	30分
第4回 施設養護について(種類・役割・特性・職員)	施設運営指針について調べる	30分
第5回 家庭的養護と家庭養護	里親について調べる	30分
第6回 社会的養護に関する機関	児童相談所の役割について調べる	30分
第7回 社会的養護に関する法律	どのような法律があるか調べる	30分
第8回 社会的養護と子どもの権利	権利擁護とは何か?自分なりの意見をまとめる。	30分
第9回 措置.利用.契約について・確認テスト①	「措置」「契約・利用」の違いをまとめる。	30分
第10回 実際の支援について	児童養護施設について調べる	30分
第11回 児童虐待について・グループワーク①	最近気になった児童虐待の記事を調べる。	30分
第12回 確認テスト②テスト解説	講義⑩までプリントを復習する。	30分
第13回 ソーシャルワークと家庭支援・グループワーク②	ソーシャルワークとは何かを調べる。	30分
第14回 施設内リスクマネジメント	被措置児童等虐待・について調べる。	30分
第15回 総まとめテスト・総まとめ	2回の確認テスト・今までのプリントを復習する。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである

総まとめテスト60%・グループワーク積極性20%・課題提出20%

課題に対するフィードバック

教科書に沿ったプリント・パワーポイントにて授業を進める。授業内容にあったDVD等の映像で理解しやすくする。レポート・グループワークで自分の意見を持てるようにする。前回の講義内容を振り返り、講義を円滑に進めるようにする。

教科書・参考書

教科書：図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ(萌文書) ※教科書は毎回の授業で使用する
参考書：この子を受け止めて、育むために(全国児童養護施設協議会)